

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771100187		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム 今泉1階		
所在地	福島県田村市船引町大字今泉字台ノ前11-3		
自己評価作成日	令和2年6月1日	評価結果市町村受理日	令和2年9月30日

地域の方とのつながりを大切にボランティアに来て頂いたり、毎月の行事では季節を感じられる様に外出支援を取り入れながら寄り添う介護を心がけています。

①地域とのつながりを持つ。
 ②寄り添い安心と安全に気を配る。
 ③日々の生活が、笑顔で送れる

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 町内会へ参加し、地区組長として毎月会合に出席している。また、利用者と共にクリーンアップ作戦や農道を花の道として整備する植栽活動への参加等、積極的に地域との交流に取り組んでいる。

2. 高齢者疑似体験の勉強会を行い、自由に行動できない状況での介護を受ける体験を通し、介護者としての意識を高め、身体拘束廃止へ向けた取り組みを行っている。

3. 新型コロナウイルス感染症の影響で運営推進会議が開催できないなかで、書面で運営状態を説明するとともに委員からアンケートで意見をもらい運営に活かすなど、コロナ禍にあっても工夫して外部から意見をもらう取り組みをしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年8月28日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中で地域の方々との触れ合いを大切にすることを掲げて、職員一同実践となる取り組みを行っている。年に一度、会議にて理念の見直しをしている。	理念は、毎年、年度末にスタッフ会議で見直しをしている。また、各階の事務所へ掲げ、常に立ち戻る原点として毎朝の申し送り時に唱和し、意義を共有して実践へ繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組長会へ参加し、地域行事に参加しながら日常的に交流する機会を設けている。	町内会の地区組長を引き受け、毎月の会議への参加や利用者と共にクリーンアップ作戦・農道へ花道を作る植栽活動へ参加している。また、地域幼稚園の定期的な訪問や地域ボランティアを受け入れ、地域との日常的な交流に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加する事や、当事業所の行事や防災訓練に参加して頂き、入居者の方の状況の理解に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため会議を中止しているが、定期的に事業所の現状や利用者状況を報告している。また、アンケートを実施しご指導、要望等を聞きながらサービスの向上となる様に取り組んでいる。	定期的に開催し事業所の状況報告及び意見を頂いていたが、3月からコロナ禍により中止のため、文書にて事故・ヒヤリハット・インシデント・行事・研修・勉強会・防災訓練の報告と共にアンケートを実施し、運営に関する意見・要望・助言等の情報を収集しサービス向上へ向け取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	田村市連絡調整会議に参加しながら、田村市の新型コロナ感染予防や行政等の連絡事項の確認をしている。	市主催の連絡調整会議で行政動向の情報収集を行い、毎年開かれる介護相談員派遣事業における第三者会議において、市担当者と積極的に懇談する等、協力関係を構築をするよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設立、定期的に会議を開催している。内容に関しては、会議等にて伝達している。	定期的に身体拘束廃止委員会を開き、事業所独自のチェックリストにより、結果をグラフで可視化している。また、管理者は気になる言葉遣い等をその場で注意を促している。スタッフは、勉強会で高齢者疑似体験をし、会議で再度体験談の振り返りをする等、意識向上に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修にて高齢者疑似体験を職員が行い実際に利用者の方がどのように生活しているのかを理解した上で身体拘束虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度の研修に参加し、必要時には活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を説明する際は、丁寧に説明を行い要所で確認をしながら疑問が無い様に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や御家族から遠慮なく希望・要望が言いやすい雰囲気作りに取り組んでいる。意見や要望があれば、早急に対応が出来る様になっている。	担当職員は、利用者からの意見を頻繁に聞き取るよう心掛けている。また、家族の面会時や電話連絡時等に、意見・要望を話してもらうよう声掛けをし、出された意見はスタッフ会議や法人本部と相談し、迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からの職員の質問や要望等は、言いやすい環境づくりに取り組んでいる。また、定期的にブロック長に相談等しながら法人との連携を図り要望等を上げている。	管理者は、職員へ個別に声掛けをする等、意見を話しやすい環境を作るよう心掛けている。また、スタッフ会議で業務の流れ等で改善点が出された場合、法人本部と相談しながら働きやすい環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の生活状況を把握し、働き方で勤務時間や稼働時間で働きやすい環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修をする際には、参加出来るようにシフト作成し職員へ研修の内容を伝えて職員参加を促しつつ経験年数、力量に応じた研修を計画としている。		

自己	外部	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、研修等に参加しながら同業者との交流の中で実践に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で出来る限りご本人の意向の確認をしながら安心した生活出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の抱えている不安、要望を聞きつつ丁寧な対応で協力できることを説明している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査を含めて御家族の思いを把握し、必要となるサービスの計画を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方が出来る事を共に職員と行う事で寄り添いながら支えあう関係性を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の思いや考えを尊重し利用者の状態把握と情報の共有をし、行事などの参加呼びかけや面会の呼びかけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス予防対策とし、面会や訪問の制限を行っているが、今後の感染状況により、御家族や知人の方の面会等で馴染みの関係が途切れないようにし、地元のボランティアの方が訪問する事で顔見知りの方に会えることが出来るように支援して行こうと考えている。	入居時に馴染みの人や場所の情報を把握している。現在コロナ禍により中止となっているが、数人の利用者がタクシーに相乗りして市内へ30分程度のドライブ外出や地域ボランティア受入れで偶然旧知の出会いが在る等、地域との関係が維持できるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況
			次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が居室で孤立する時間を少なくし、共有スペースで過ごせるように職員が仲介をしながら利用者同士が関りを持てる様になっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にも、本人、御家族が困る事がある場合には相談して頂ける様に声掛けをしている。退去後も、ホームに来られる利用者の方もいる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の利用者の方との会話や御家族に対しては新型コロナウイルス感染予防の為、電話でのホームの状況を説明する際には希望や意向を組み取りプランに反映する様に心掛けている。	入居時に家族からの情報や暮らしの中での希望・意向を汲み取り、把握に努めている。困難な場合は、これまでの生活状況や生活サイクルからの判断と家族への相談により、本人の意向に沿うよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から生活歴を聞き取りその後の家族の面談等を通して、得た情報はケースカンファレンス等で職員間の共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一人ひとりの日常生活のなかで、個々の状態を把握し、職員間で共有し情報の共有に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人の要望や意見、御家族からの要望等を考慮した介護計画作成に努めている。定期的な見直しは当然であるが本人の状態変化に伴い、介護計画書の見直しをしている。	入居前、本人・家族と面談し、意向を取り入れた介護計画を入居後1カ月を目途として策定している。その後、アセスメント・モニタリングを行い、ケース会議で意見交換し3カ月ごとに見直しをしている。また、体調変化や緊急時にはそのつど見直しをしている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や業務日誌の特記事項を注視し、変化や気づきをカンファレンスに生かし介護計画の見直しに反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の方や御家族の状況に応じて受診の送迎、介助を行いつつ柔軟に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員や御家族から地域のボランティアを紹介頂きながら楽しんで頂ける様に行事企画行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の要望や意向でかかりつけ医の継続的受診が出来る様に支援し、また、相談があれば訪問診療の検討も行っている。	かかりつけ医へ継続受診できるよう、家族が都合つかない時には職員が同行している。また、在宅診療を行っている協力病院の医師が月2回往診し、状態変化時は、即、協力病院の看護師へ連絡相談し、適切な医療対応ができるよう体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師から定期的に訪問して頂く事で健康管理の相談が出来る様に行事企画適切な医療につなげる事が出来る。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には状況の把握と治療経過の確認で迅速に退院の対応が出来る様に病院関係者と連携を図っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に対しての意向を書面にて確認し、重度化した際や、入居されてから利用が3年5年と利用経過されている方にも再度終末期についてその都度、説明を行っている。	入居時に、終末期の対応について書面で事前確認をとっている。状況が変化したときは、再度、主治医から家族へ説明をし意向を確認している。協力病院と訪問看護師との連携により看取りに対応するとともに、職員研修も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、マニュアルに沿って対応が出来る様にしている。定期的に法人指導で救急法の確認をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の消防訓練を行い、避難誘導に対して備えている。地域の方々の協力を得られるように組長会や近所の方に呼びかけを行い、関係の構築に努めている。	消防署立会の総合避難訓練を年2回実施している。地域住民参加者に事業所内の配置や職員の動きを見学していただき、消防署から地域住民の役割について説明を受け有効な取り組みをしている。また、毎月、日中・夜間・火災・地震想定訓練を行い、本部からの助言を得ている。食糧、水等5日分の備蓄をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を忘れず、介護職員の接遇マナーについて勉強し、尊厳ある対応が出来る様に支援を心掛けている。	身体拘束委員会と連携し、尊厳とプライバシーの確保についての研修を行い、スタッフ会議で再度伝達研修を行っている。排泄誘導時には、他の利用者の前でその人の人格や誇りを損なわない言葉へ置き換え、個人の尊厳に配慮した取り組みをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の意見を組みとれる様に、思いが話せる様な言葉かけを工夫し、本人の言葉を引き出すようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、個々の希望に合わせたケアにつなげている。本人の体調や気持ちに対して、尊重しながら柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の聞き取り等で把握し、普段の装いに取り入れている。季節感、寒暖感を含めて、声をかけながら支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	職員と食卓を囲み家庭的な和やかな雰囲気の中で召し上がって頂ける様、取り組んでいる。また、行事等では外食の機会も作りながら入居者様の要望を取り入れている。	栄養価を計算した冷凍総菜を活用し、野菜類を近くの店で購入している。今年はコロナ対応業務に追われたが、例年野菜作りをし、利用者と共に手入れや収穫を行い食の楽しみを得ている。また、できる範囲で調理の手伝いをしていただき、共に食卓を囲み食事を楽しむ取り組みをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた野菜中心の食生活が送れている。水分量については、記録を取り少ない時は好みの飲み物にて十分な摂取量が確保できるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況
			次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。利用者本人の力に応じて行って頂ける様に声掛けを見守りをしている。出来ない方には、職員が義歯洗浄を行っている。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンが把握できるようにしながら、必要に応じた支援を行うことで清潔保持が出来る様に努め、オムツ使用の方は、定期的な交換確認をしている。	排泄パターンを把握し声掛け誘導を行い、ほとんどの利用者がトイレで排泄する等、排泄の自立に向けた取り組みをしている。また、水分摂取を多くしていただくため、利用者の好みに応じ牛乳、お茶等を提供している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽体操や飲食物で工夫しながら予防としている。下剤については、医師の指示の下で職員が管理を行っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時には、声掛けしながら入浴がしたいと思って頂ける様リラックスできる空間づくりをしている。	週2回を基本とし、入浴を拒む場合には、声かけの工夫や時間帯や日をずらして対応している。また、介助は、同じ職員が声かけ誘導から入浴介助・着替えまで支援し、安心・安全に気持ちよく入浴できるよう配慮している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に添いながら、それぞれ自由に休息し、安心して休んで頂ける様に支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示、説明を記録として残し職員間の共有としている。服薬の際には、職員が傍で見守りをし飲み込みの確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌のレクリエーションに参加したり、洗濯物たたみやテーブル拭き、おかずをよそって頂いたり、利用者の方の得意なことができる様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス予防対策とし、外出を控えているが、外の季節が分かる様に桜やその時期咲いている生花をホーム内に飾る様にしている。	今年度はコロナ禍で外出中止となっているが、月1回、利用者・職員全員で、季節の花見や紅葉狩り、外食を楽しみ、利用者同士の交流を図っていた。現在は、敷地内の散歩や室内に季節の花を飾って季節感を感じてもらえるよう工夫をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心される方も居るため、御家族の理解の元、少額を本人管理としている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけて欲しいと言った要望で電話を掛ける事や必要に応じた電話の仲介をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、四季を感じて頂ける様な壁飾りや生花や行事の写真等をみて楽しんで頂ける様な心掛けを行っている。	廊下には、利用者と職員が作った季節の作品が飾られ、リビングは光が入り明るく気持ちよく過ごせるよう工夫している。温度・湿度を適切に管理し、感染症対策のため手すりの消毒や居室のタオル交換、天窓を開けての換気、床清掃等時間を決めて実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食卓の個々の好きな場所で過ごして頂ける様にしている。個別の椅子ではなく、ソファの様な隣の方と会話がしやすい環境にある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室空間は、自宅で使用していた家具や家電を入れて頂き、今までの生活に馴染の物で居心地の良い環境を作っている。また、御家族の写真などを飾って頂いている。	ベッド・クローゼット・エアコン・換気扇が備え付けであり、筆筒・テレビ・お位牌・写真・ポスター等自由に持ち込んでいただいている。自宅での家具の配置を参考に、利用者や相談しながら配置を決めている。また、各部屋のエアコンと換気扇は、夜間巡回時温度管理をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の方にあつた手すり設置やベットの配置を考え身体状態の変化でも工夫をしている。			